

担い手の確保・育成としての研修会の実施について

1 はじめに

県南広域振興局林務部（以下、「県南林務」という。）では、管内の岩手県意欲と能力のある林業経営体を対象に、専門的な知識・経験を有する専門家を派遣し、適正な診断や助言を行う「森林経営専門家派遣事業」を活用した研修と、「岩手県伐木技術普及研修会」を実施し、伐木の基本や危険予知について認識を深めましたので報告します。

2 森林経営専門家派遣研修

研修場所の奥州市衣川は、奥羽山脈特有の粘性な土質であり、湧水があると路盤が沈下することから、路網作設の専門家である畠山辰也氏（株式会社ふるさと木材代表取締役）から指導をいただきました。



路線選定の留意点は、①平たん地を避けて湧水の少ない斜面中腹とし、支線は尾根に設けること。②窪地など滞水する箇所の横断は丸太を敷き、山側に素掘側溝を設けて、地下水位を下げたり水を誘導することの2つです。

特に水対策は重要で、1つの方法ではなく複数の対策を組合せ、乾いた土を使用することが重要であり、現地発生材などの活用についても学びました。

3 伐木技術普及研修会

岩手県伐木技術指導員の武田智之氏（岩手県林業労働対策基金）を講師として、伐倒の基本の復習と個別指導を、6名が受講しました。



受け口と追い口を適切に設けることにより、接点が^{ちょうつがい}蝶番の役割をして倒す方向が正確になり倒れる勢いを抑えることに繋がるとの説明があり、基本と実際のズレを修正することが災害防止に繋がることを学びました。

また、個別指導と併せて、リスクの洗い出しや枯れたアカマツや広葉樹の伐倒方法、速やかな退避についても学びました。なお、受講生のうち2名は保育部門として独立を目指しているとのことでした。

4 おわりに

車両系による搬出が一般的となり、路網の重要性の高まりと災害防止の観点からも作業道の開設技術の向上が必要となっていること。

また、伐倒作業による重大事故が後を絶たない状況であることから、県南林務は今後も継続して同様の研修を行い、人材育成を図りながら災害防止の徹底を周知していきます。